

事項	りんご台木育成系統「青森台木3号（A.O. 3）」の特性		
ねらい	<p>現在、わい性台木として主に使用されている「M. 26」や「M. 9 A」は挿し木での繁殖が困難であることが明らかとなっている。青森台木3号は昭和50年にりんご試験場でマルバカイドウ×「M. 9」から育成した120個体の交雑実生の中から、挿し木繁殖率が高く、「M. 9」と「M. 27」の中間の大きさとなるわい性台木として選抜し、平成8年から現地適応性試験に供試した。平成9年12月にA.O. 3として登録申請したので、参考に供する。</p>		
指導参考内容	<p>1 挿し木繁殖性 昭和56～59年の平均で67.6%、平均9年では62.8%であり、挿し木活着率は60%強である。</p> <p>2 わい化の程度 樹高、樹幅、幹周から「M. 27」と「M. 9」の間である。</p> <p>3 病害抵抗性 1) 斑点落葉病や黒星病にはマルバや「M. 26」並みに強い。 2) 疫病には抵抗性である。 3) 耐水性は「M. 26」や「M. 27」よりも強く、マルバ並みである。</p> <p>4 他の台木との区別性 1) 下垂性となりやすく、直立性のマルバ、「M. 26」「M. 9」、「M. 27」及び「JM7」等のJM台とは区別される。 2) 葉身の中央部が盛り上がるエピナスティとなるため、「M. 26」や「M. 9」、「M. 27」と容易に区別される。</p>		
期待される効果	<p>1 自園でわい性台木の繁殖が容易となる。 2 低樹高栽培に適した台木である。</p>		
利用上の注意事項	本格的に台木が供給されるのは平成12年の見込みである。		
担当	青森県りんご試験場 育種部 病虫肥料部	対象地域	県下全域
発表文献等	平成8年度 果樹課題別研究会資料（寒冷地果樹）		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 挿し木活着率 (平成9年 青森りんご試)

プランター	供試数	活着数	活着率
1	24	14	58.3
2	28	16	57.1
3	42	29	69.0
計	94	59	62.8

表2 M.26台を100とした場合のつがるの生育及び収量 (平成4～8年 青森りんご試)

系統番号	樹高 (m)	対比 (%)	樹幅 (m)	対比 (%)	幹周 (cm)	対比 (%)	累積収量 (kg/cm ²)	対比 (%)
A.O. 3	2.9	70.7	1.7	58.6	13.5	70.3	2.23	74.2
M. 26*	4.1	100	2.9	100	19.2	100	3.14	100
M. 9*		75						
M. 27*		50						

注) M. 26はすべてM. 26EMLAである。
M. 9及びM. 27については「わい化栽培の手引き」を参考にした。

表3 斑点落葉病抵抗性 (平成9年 青森りんご試)

系統名	発病率 (%)
A.O. 3	0
M. 26	0
M. 27	0
マルバ	0
スターキング	100

供試新しょう数
A.O. 3 : 2本
M. 26、M. 27、マルバ : 各1本
スターキング : 3本

接種日 平成9年6月7日
病徴調査日 平成9年6月9日

表4 黒星病抵抗性 (平成9年 青森りんご試)

系統名	病徴の有無
A.O. 3	無
M. 26	無
M. 27	無
マルバ	無

供試新しょう数
A.O. 3 : 2本
M. 26、M. 27、マルバ : 各1本

接種日 平成9年7月2日
病徴調査日 平成9年7月23日

表5 リンゴ疫病抵抗性 (平成9年 青森りんご試)

系統名	有傷・無傷	供試数	病徴
A.O. 3	有傷	2	無
	無傷	3	無
M. 26	有傷	3	無
	無傷	2	無
M. 27	有傷	2	無
	無傷	2	無
マルバ	有傷	3	無
	無傷	3	無

接種日 平成9年6月25日
病徴調査日 平成9年7月2日

表6 耐水性 (平成9年 青森りんご試)

系統名	供試数	健全	枯死
A.O. 3	5	5	0
M. 26	5	3	2
M. 27	4	2	2
マルバ	6	6	0

湛水日 平成9年7月23日
調査日 平成9年7月28日